

兵庫県神戸市の大樹さん

特別住民番号1027

僕の父は大の本好きで、いつも本を手元から離れた事がありません。一冊読み終わらないうちから次の本を買うので、いつも家の中に待機中の本が数十冊あります。

そんな父が僕の名前を付ける時に考えたのは、今までに読んだ本の中から選ぼうとしても当然の事だと思います。

僕が生まれる前に父が読んでいたのは中国の「後漢書」だったそうで、ある時その本を持ってトイレに入っている時、次の文章に行き当たり「これだ」と大樹の名前を決めたそうです。

「後漢書」に、後漢馮異という将軍は謙遜の人で自分の軍功に誇ることがなく、多くの将軍が功を論ずる時、いつも木の下に引き退き黙っていたことから軍中の人、これを号して大樹将軍といった。

是から将軍の異名を大樹といい、また功を誇らぬ人を大樹という。

この文章は僕のアルバム第一冊第一ページ目に父の字で貼ってあります。

父はこの時、男子の名前しか考えていず、母にも絶対男しか生まれないと切り切つて困らせたそうです。

父は僕が大きくなって社会に出た時、周りに人が自然に集まってくる様な人物になるよう期待を込めて命名したらしいですが、僕には少し重い名前かもしれません。

何とか一人でも多くの人に慕われる様に頑張っていきたいと思います。



福島県郡山市の大樹さん

特別住民番号1046

大樹、と書いて、ひ・ろ・き、と読みます。

名前は、すぐには決められないので、彼が生まれてくる約2ヶ月前から悩んでおりましたが、生まれる寸前でも、これだ！という名前は浮かびませんでした。

彼が誕生して、思い立ったことが下記のことです。

大きい樹木の下には、いろいろな人が集まる。遊びに来る人、本を読む人、散歩に来る人、木陰で休む人……。

どの人にとっても、安らぎの場所である。また、動物にとっても、重要な役割を果たしている。人や動物が自然に集まる樹木のように、優しく、大きく、健やかに育てほしい、との願いから、この名前に決めました。

平成8年2月24日、この名前をつけられた彼は、現在3才。

動物とふれあう意味も含めてつけた名前のおりには育たないもので、虫や動物を見ることはできても、さわることのできない彼。でも将来は大きい樹木にも負けない大物になっていることを期待しています。(父)



東京都東久留米市の大樹さん

特別住民番号1048

昭和59～平成元年まで札幌に住んでいました。北海道中を旅行して回り、長男が生まれた時、北海道らしい名前を考え、広い大地に立つ樹のようにたくましく、大樹と名づけました。1才になる前引越した長男は、北海道のことはおぼえてませんが、「ぼくの生まれたのは北海道」と自慢の一つです。



生まれる前から、虎之介と言う名前がいいと言い、おなかの中にいる時は、トラ、トラと呼びかけていましたが、その名前がすごく嫌で、ずっと主人には、生まれて市役所に届けに行くまでには、違う名前を考えてねと言っていました。いざ生まれてきて、男の子だと言うことが明確してから、市役所へ今日の昼までに、届けを出さなくてはいけないという午前中まで虎之介にこだわっている主人に、その名前は絶対にイヤなのでお願いだから真剣に考えてほしいと頼んだ所、いきなり大樹と言う名前が飛び出して来ました。私は一度で、すごく気に入り、なんでその名前がひらめいたのかを聞いてみると、主人の実家は札幌で、親友が2人いるんですが、昔、友達と3人で、もし俺が結婚して、男の子が生まれるようなことがあれば、おまえ達の名前を一字ずつもらうという約束を思い出したと言ってました。一人は、大(だい)君で、もう一人は真樹(まさき)君だそうです。それで、一字ずつもらい、大樹(たいき)にしよう。決めた！！すごくいい名前だと言って、すぐに、出生届を出しに行きました。みんなにも、すごくいい名前だねと言われ、とても気に入っています。



北海道に大樹町と言う町があることは全然知らず、私は2人目の出産の為、主人の実家・札幌へ帰っていた所、近所の方から、大樹と言う名前の人達を募集してるよと聞き、送らせて頂きました。

主人の故郷、北海道にいる友人の名前をもらいつけた名前が、北海道に大樹町と言う所があるなんて、とてもうれしく思っています。この子が、大きくなってわかる様になった時、この話をしてあげたいと思っています。それと、ぜひ、大樹をつれて、大樹町に、遊びに行きたいと思えます。(母)

私は、昭和40年8月25日に誕生しました。両親から聞かされている名前の由来は、「寄らば大樹の蔭」の言葉通り、「大きくなってから、人様が私の周りにたくさん集まってくださるように」と願って名付けたと聞いております。



もうひとつは、父親は俳優の勝新太郎さんが大好きで、勝新太郎さんが御息の名前を「雄大」と名付けられたそうです。その「大」の字も父親の気持ちの中にあっただようです。勝新太郎さんが出演なさった、今東光原作、「悪名」の主人公、朝吉親分の人間味が父親は大変好きなようです。

家族全員で訪問できる日を楽しみにしております。

1994年9月10日に生まれた大樹。字の通り、大きい樹という意味なのですが、その字のイメージから、いくつかの願いを込めました。

広い草原あるいは小高い丘に、一本の大きな樹が育っているところを想像してください。大きく枝を伸ばし、その枝々に青々とした葉がこんもりと茂っています。幹は太く、大地にしっかりと根を伸ばしている様子が、その外観から見てとれます。季節は、彼が生まれたのと同じ夏で、日差しは強くなっています。暑さと煩雑な世界に疲れた様子の人たちがやってきて、彼の木陰で一休みします。そのおおきな木陰は、人々に安らぎを与えました。樹はやさしく見守っています。



これが、大樹に願いを込めてつけた名前の由来です。太い幹は、彼の芯の強さや堂々とした様子を、しっかりと大地に伸ばした根は、安定性、少々のことでは動じない

姿勢、自分のやりたいことには腰を落ち着かせて取り組めるように。葉は知識の多さを意味し、枝振りには他人を受け入れる許容力、隔たりなく誰でも木陰で休ませてあげられるように、他人に優しく、寛大であるように、等の願いをこめました。ちょっと、欲張りすぎかなという気もしますが、今のところ寛大さ、許容力、やさしさは育っているようです。今後何年もかけて、大地にしっかりと根を生やし、太い幹を持ってくれば良いなど願っております。大樹は、明日5歳になります。(母)

北海道留萌市の大樹さん

特別住民番号1078

私達夫婦に初めての子供誕生。それが大樹でした。太り過ぎた私は、病院の先生に「子供を取るか自分を取るか。」と言われる位の横綱になっていた。あげくには一週間も予定日を過ぎて産声をあげた息子「大樹」は何と2600と未熟児すんぜんの小ささでした。



昔の人は小さくうんで大きく育てろとはよく言ったけど、隣と一緒にねている大きいベビーをみると何と心細いことか。何とか大きく育ててほしいと願わずにはいられませんでした。そして男の子なら強い名前、大らかな名前と思い、大の字を使う事を考えていました。

そして私達夫婦がつけたのが大樹。

だい(大)地にしっかりと根をはり、みき(樹)を育て

青空にのびのびとすこやかに

その大樹も9才です。相変わらず細い子ですが、のびのびとすこやかにのびております。(母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1085

昭和62年3月20日、札幌にて誕生しました。

名前の候補にありました、「大樹」と命名することにしました。

長男は東京生まれ。二男は北海道らしい名前にと思い頭を悩ましたが、酪農地帯で有名な「大樹町」の名前をいただくことにしました。



両親ともチーズが大好きで、カマンベールの工場もある大樹町、響きもステキでしたし、実在する町の名前というのがいいと、とても気に入ってつけました。残念なことに、帯広、釧路には行くことがあっても、なかなか行けそうもありません。一度、家族で行ってみたいと思っています。

本人もとっても名前が気に入っていて、「高橋君」と姓で呼ばれるよりも「大樹」と呼ばれることに喜びを感じるようです。

新聞で全国の大樹さんを募集しているのを見て、まさしく、うちの大樹にピッタリと思いつぐ応募させていただきました。特別住民になれたことで、自分の名前に由来する町ということで関心をよせております。

動物や植物が好きで、およそ札幌に住んでいることがにあわない子です。名前程、大きく、そして根を張りめぐらせそうな子ではないのですが、きっと彼らしい大きな樹に育ってくれることと楽しみにしております。

まだ見たこともないけれど、どうも気になる大樹町です。特別住民になったことで、大樹町とどんな関わりを持っていけるか気になります。

こんなステキな企画を考えて下さいまして、ありがとうございました。今、町がおもしろい。そんな私の印象です。特色ある街づくりがすすめられて、住民の意見も反映されやすい。益々の大樹町の発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。(父)

青森県八戸市の大樹さん

特別住民番号1098

ぼくの名前は「大樹」と書いて「ダイキ」といいます。ぼくのお父さんは、まだぼくがおなかの中にいて男の子か女の子かわからないときから、大樹という名前がひらめいて、男の子なら大樹にしようときめていたそうです。そして本当に男の子がうまれたので、大樹にしたそうです。



大きい樹のように大地に根付いてたくましく育ってほしいというねがいがこめられているようです。この名前のおかげで、ぼくは大樹町の特別住民になることができました。ぼくと同じ名前の町があっただけでもうれしかったのに、町民にもなれたのですごくうれしいです。いつか家ぞくみんなで遊びに行きたいと思っています。写真は、ぼくの住んでいる八戸の三社大祭の時のものです。毎年8月1日から3日まで日本一の山車まつりがひらかれます(7月31日には前夜祭があります)。大樹町のみなさんもぜひ見に来て下さい。

東京都練馬区の大樹さん

特別住民番号1099

最初は主人と行っていた北海道、ハンドメイドの一人旅の面白さに目覚めて、少しマニアックな旅の本から、あちこち行きたいところを拾っていて目をひかれたのが、大樹・忠類・オイカマナイトウ・ホロカヤントウといった耳なれない地名でした。行ってみたいなと思いつつも、一人では無理だろうと、その時は保留にしたのですが、地名はいつも頭の片隅に残っていました。



その時の旅先で出会った人が、今は亡き主人です。男の子が産まれたら私が、女の子が産まれたら主人が名前をつける、ということにしている、産まれる前から、もう名前が決まっていた。昔から漠然と、『大ちゃん』と呼ばれる(呼ぶ)のっていいな、と感じていたところに、主人の名前が『英樹』で、樹という字も、もちろん自然の樹も大好きだったので、もう『大樹』という名前以外、考えられませんでした。

大らかに、すくすくと、大樹が木陰を作って人をいこわせるように、鳥や虫、動物のいこいの場所になるように、そんな人になってほしい、と大それた願いもこめてつけました。実際には、ちょっと弱いな、と感じるところもある息子ですが、たくましく、優しく育ってほしいと思っています。(母)